

| 発行者の 番号・略称 | 教科書の 記号・番号 | 教科書名 |
|---------------|---------------|--------------------------------|
| 050 大修館 | 保体304 | 現代高等保健体育改訂版 代表著作者 和唐正勝 高橋健夫 |

1. 編修の基本方針

- ◎保健体育の学習をとおして、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を養うために、記述内容の検討はもとより、コラムや学習課題を設けるなど、教科書全般にわたって配慮する。
- ◎実生活に役立つ内容や高校生が関心をもつ内容を積極的に取り上げるなどし、質量ともに教科書の充実を図り、国民として身につけるべき十分な保健体育の知識と教養を提供する。
- ◎主体的に学習する姿勢や自ら思考・判断・表現する能力が身につくよう、課題や特設ページの設置などの工夫を施す。
- ◎学んだ知識を実生活に生かせるよう、実践力の育成に結びつく課題を設ける。
- ◎ヘルスプロモーションの考え方を生かし、自分の健康を自分で築くとともに、個人を支える社会環境づくりについても社会の一員として考えることができるよう、教科書全般にわたって配慮する。
- ◎生涯にわたり、健康的な生活、豊かなスポーツライフを送るための資質や能力を育成するための資料や情報を提供する。

2. 編集上特に意を用いた点や特色

- ◎冒頭にリード文を設け、何を学ぶのか、どこが重要なのかを考えさせる道筋を示しました。
- ◎自主的・自発的な学習を促すため、各項目末に学習内容をさらに深める課題（「考えてみよう」）を設けました。
- ◎キーワードを太字で示し、重要な事項を把握しやすいよう配慮しました。
- ◎脇の余白に、必要に応じて補足説明を施し、より深い理解を促すよう配慮しました。
- ◎保健編・体育編の編末に、中項目主義の用語解説を置き、関連事項を含めて専門的な用語を理解することができるよう配慮しました。
- ◎図表等の下に、見るポイントや補足説明を施し、資料を適切に理解することができるよう配慮しました。
- ◎適宜「コラム」を設け、学習内容から生徒の興味・関心を広げる足がかりとなるよう配慮しました。
- ◎思考力・判断力を育成するため、学習した知識を活用して解決する課題（「健康にかかわる行動を考えてみよう」「マイスポーツライフの設計」）を適宜設けました。
- ◎学習内容をさらに掘り下げるために、学習者自身に調べさせる課題（「防災・防犯をめざした社会づくり」「世界の民族スポーツ」）を設けました。
- ◎学んだ技術を確実に身につけ、実践力を養うため、「実習」を設けました（「心肺蘇生法を実習しよう」）。
- ◎学びを発展させるために、学習内容の背景を理解できる読み物（「歴史からみたさまざまな健康のとらえ方」「過去の公害から学ぶ環境問題」）を設けました。

3. 対照表

| 図書の構成・内容 | 学習指導要領の内容 |
|--|---|
| 保健編 1 単元 現代社会と健康 1. 私たちの健康のすがた 2. 健康のとらえ方 3. 健康と意志決定・行動選択 4. 健康に関する環境づくり ●歴史からみたさまざまな健康のとらえ方 | (1) 現代社会と健康 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。 ア 健康の考え方 健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。 健康の保持増進には、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりがかかわること。 |

| 5. 生活習慣病とその予防 6. 食事と健康 7. 運動と健康 8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康 ●健康にかかわる行動を考えてみよう 12. 現代の感染症 13. 感染症の予防 14. 性感染症・エイズとその予防 | イ 健康の保持増進と疾病の予防 健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること。 喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があること。 (内容の取り扱い) ・内容の(1)のイ及び(3)のイについては、食育の観点を踏まえつつ、健康的な生活習慣の形成に結び付くよう配慮するものとする。 ・内容の(1)のイの喫煙と飲酒、薬物乱用については、疾病との関連、社会への影響などについて総合的に取り扱い、薬物については、麻薬、覚せい剤、大麻等を扱うものとする。 |
|--|---|
| 15. 欲求と適応機制 16. 心身の相関とストレス 17. ストレスへの対処 ●ストレスに対処しよう 18. 心の健康と自己実現 | ウ 精神の健康 人間の欲求と適応機制には、様々な種類があること。精神と身体には、密接な関連があること。また、精神の健康を保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であること。 (内容の取り扱い) 内容の(1)のウについては、脳の機能、神経系及び内分泌系の機能について必要に応じ関連付けて扱う程度とする。また、「体育」における体ほぐしの運動との関連を図るよう配慮するものとする。 |
| 19. 交通事故の現状と要因 20. 交通社会における運転者の資質と責任 21. 安全な交通社会づくり ●防災・防犯をめざした社会づくり | エ 交通安全 交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備などがかわること。また、交通事故には責任や補償問題が生じること。 (内容の取り扱い) 内容の(1)のエについては、二輪車及び自動車を中心に取り上げるものとする。また、自然災害などによる傷害の防止についても、必要に応じ関連付けて扱うよう配慮するものとする。 |
| 22. 応急手当の意義とその基本 23. 心肺蘇生法 24. 日常的な応急手当 ●心肺蘇生法を実習しよう | オ 応急手当 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、心肺蘇生等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。 (内容の取り扱い) 内容の(1)のオについては、実習を行うものとし、呼吸器系及び循環器系の機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。また、効果的な指導を行うため、「体育」の「D水泳」などとの関連を図るよう配慮するものとする。 |
| 図書の構成・内容 | 学習指導要領の内容 |
| 保健編 2 単元 生涯を通じる健康 1. 思春期と健康 2. 性意識と性行動の選択 3. 結婚生活と健康 4. 妊娠・出産と健康 5. 家族計画と人工妊娠中絶 6. 加齢と健康 7. 高齢者のための社会的取り組み ●生涯にわたる健康づくり | (2) 生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。 ア 生涯の各段階における健康 生涯にわたって健康を保持増進するには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかわっていること。 (内容の取り扱い) 内容の(2)のアについては、思春期と健康、結婚生活と健康及び加齢と健康を取り扱うものとする。また、生殖に関する機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。責任感を涵養することや異性を尊重する態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処についても扱うよう配慮するものとする。 |

| | |
|--|---|
| 8. 保健制度とその活用 9. 医療制度とその活用 10. 医薬品と健康 ●医師や医療機関について考えてみよう | イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 生涯を通じて健康の保持増進をするには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であること。 また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること。 |
| 11. さまざまな保健活動や対策 | ウ 様々な保健活動や対策 我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や対策などが行われていること。 |
| 保健編 3単元 社会生活と健康 1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁・土壌汚染と健康 3. 健康被害の防止と環境対策 ●過去の公害から学ぶ環境問題 | (3) 社会生活と健康 社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。 ア 環境と健康 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること。 (内容の取り扱い) 内容の(3)のアについては、廃棄物の処理と健康についても触れるものとする。 |
| 4. 環境衛生活動のしくみと働き 5. 食品衛生活動のしくみと働き 6. 食品と環境の保健と私たち | イ 環境と食品の保健 環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、それに基づき行われていること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていること。 (内容の取り扱い) 内容の(1)のイ及び(3)のイについては、食育の観点を踏まえつつ、健康的な生活習慣の形成に結び付くよう配慮するものとする。 |
| 7. 働くことと健康 8. 労働災害と健康 9. 健康的な職業生活 | ウ 労働と健康 労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があること。 |
| 図書の構成・内容 | 学習指導要領の内容 |
| 体育編 1単元 運動・スポーツの文化的特徴 1. 人間にとって「動く」とは何か 2. スポーツの始まりと変遷 ●武道と日本生まれのスポーツ | (1) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする。 ア スポーツは、人類の歴史とともに始まり、その理念が時代に応じて変容してきていること。また、我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあること。 |
| ●スポーツルールの変容 3. 文化としてのスポーツ ●競技スポーツにおける競争の意味 ●スポーツとメディア | イ スポーツの技術や戦術、ルールは、用具の改良やメディアの発達に伴い変わり続けていること。 |
| 4. オリンピックと国際理解 ●世界の民族スポーツ | ウ 現代のスポーツは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックムーブメントがあること。また、ドーピングは、フェアプレイの精神に反するなど、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせること。 |
| 5. スポーツと経済 | エ 現代のスポーツは、経済的な波及効果があり、スポーツ産業が経済の中で大きな影響を及ぼしていること。 |

| | |
|---|---|
| 6. ドーピングとスポーツ倫理 ●ドーピングの始まりと歴史 | ウ 現代のスポーツは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックムーブメントがあること。また、ドーピングは、フェアプレイの精神に反するなど、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせること。 |
| 体育編 2 単元 運動・スポーツの学び方 1. スポーツの技術と戦術 ●球技の型と戦術の特徴 | (2)運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。 ア 運動やスポーツの技術は、学習を通して技能として発揮されるようになること。また、技術の種類に応じた学習の仕方があること。 |
| 2. 技能の上達過程と練習 ●ゲームにおける戦術的判断 ●メンタルトレーニング | イ 運動やスポーツの技能の上達過程にはいくつかの段階があり、その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法などがあること。 |
| 3. 効果的な動きのメカニズム ●運動・スポーツと脳 ●動きと力 4. 技能と体力 5. 体力トレーニング | ウ 運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること。また、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること。 |
| 6. 運動やスポーツでの安全の確保 ●健康づくりのためのエクササイズ | エ 運動やスポーツを行う際は、気象条件の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められること。 |
| 体育編 3 単元 豊かなスポーツライフの設計 1. 生涯スポーツの見方・考え方 ●スポーツ科学のすすめ ●スポーツにかかわる職業 | (3)豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにする。 ア スポーツは、各ライフステージにおける身体的、心理的、社会的特徴に応じた楽しみ方があること。また、その楽しみ方は、個人のスポーツに対する欲求などによっても変化すること。 |
| 2. ライフスタイルに応じたスポーツ ●身のまわりの人のスポーツライフ ●マイスポーツライフの設計 | イ 生涯にわたってスポーツを継続するためには、自己に適した運動機会をもつこと、施設などを活用して活動の場をもつこと、ライフスタイルに応じたスポーツのかかわり方を見付けることなどが必要であること。 |
| 3. 日本のスポーツ振興 ●世界のスポーツ振興 | ウ スポーツの振興は、様々な施策や組織、人々の支援や参画によって支えられていること。 |
| 4. スポーツと環境 | エ スポーツを行う際は、スポーツが環境にもたらす影響を考慮し、持続可能な社会の実現に寄与する責任ある行動が求められること。 |